

取り組み紹介書

施設 袋井市立聖隷袋井市民病院	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border-bottom: 1px solid black; width: 50%;">職場</td> <td style="border-bottom: 1px solid black; width: 50%;">氏名</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="padding: 5px;">(団体の場合は団体名 4階病棟転倒検証プロジェクト)</td> </tr> </table>	職場	氏名	(団体の場合は団体名 4階病棟転倒検証プロジェクト)	
職場	氏名				
(団体の場合は団体名 4階病棟転倒検証プロジェクト)					

<p>【タイトル】 転倒件数減少につながる業務改善への取り組み</p>
<p>【課題】 2018年11月に同一患者が複数回転倒を繰り返す事象が発生した。高齢者の転倒は、その後の生活の質に直結し、退院先が変更になることもある。また、合併症を多く抱える高齢者の転倒が重症化する可能性も高い。高齢者の安全な療養生活を守るためには、有効な転倒再発予防を多職種で検討していく必要性があった。</p>
<p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・転倒患者を繰り返し転倒させないための効果的かつ個別な対応を具体的に検証し、再転倒を予防する。 ・多職種が現場に集まり意見交換することで、チームワークを高めて患者安全を図る。
<p>【方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 多職種で転倒検証プロジェクトを編成し転倒検証方法を決める。 ② 転倒検証を繰り返し、転倒PJは四半期に一度集まり事象を集計・分析して傾向を把握する。 ③ 判明した傾向（特に転倒好発時間）から、業務内容を見直す。 ④ 業務改善を計画し、職場で取り組む。 ⑤ 転倒PJでの集計・分析を積み重ね、推移を把握して職場・院内にインフォメーションする。
<p>【結果・効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2018年11月から活動した転倒PJを継続したことで、徐々に転倒件数が減少し、2020年11月には転倒件数をゼロにすることができた。 (参考：当病棟では、もともと身体拘束は行っていない) ・職場内のリスクセンスがあがり、危険予知する行動や転倒予防対策が定着した。
<p>【事業団内外の表彰実績（表彰されている場合）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・

※人命救助などの場合は添付の必要はありません。